

宮崎県森連会報

発行 宮崎県宮崎市橋通西2-2-2 宮崎県森林組合連合会 電話0985(25)5133 2023年10月25日発行



森林組合理事・監事研修会

2023 **10**
vol.308

目次

森林組合理事・監事研修会を開催	1
宮崎県森林組合職員連絡協議会大会を開催	2
令和5年度 全国森林組合職員連盟全国研究集会に参加	2
森林組合主任職員研修会を開催	3
森林組合インボイス研修会を開催	3
森林組合中堅職員研修会を開催	3
新規採用者のあいさつ	4
宮崎県生産森林組合連絡協議会・活動活性化研修会が開催される	4
協同組合学習会を開催 ～「持続可能な地域づくり」「国消国産」等への行動変容のきっかけに～	5
令和5年度 宮崎県林業構造改善協議会 通常総会・研修会が開催される	5
優良材市のご案内	6
木材市況	7

森林組合理事・監事研修会を開催

当会は、9月27日から28日の2日間に、県内各森林組合の理事・監事を対象とした「森林組合理事・監事研修会」をニューウェルシティ宮崎にて開催しました。この研修会は、理事・監事の職務の執行に必要な知識の習得を行うとともに、経営者としての意識の高揚を図ることを目的として毎年実施しており、今年度は宮崎県環境森林部次長の松井健太郎氏をはじめとする4名の講師を迎え、90名が参加しました。また、コロナ禍で自粛を余儀なくされていた懇親会を令和元年度以来4年ぶりに開催することができました。

研修内容は、以下のとおりです。

9月27日

1. 「脱炭素社会の進展と森林クレジット」

講師 (株)農林中金総合研究所

リサーチ&ソリューション第1部

研究員 石塚 修敬 氏

2. 「これからの宮崎の林業について」

講師 宮崎県 環境森林部

次長 松井 健太郎 氏

9月28日

3. 「理事・監事の役割と会計・監査のポイントについて」

講師 全国森林組合連合会

組織部監査室

担当室長 山崎 達哉 氏

4. 「森林組合におけるコンプライアンス」

講師 農林中央金庫 福岡支店 営業第五班

次長 丸山 健太郎 氏

初日の石塚氏の研修では、森林由来のクレジット（J-クレジット）が始まった経緯から制度の概要並びにJ-クレジット制度の現状と課題や今後の進展について講義をいただきました。

松井氏の研修では、令和3年度に林業産出額【木材産業部門】において全国1位になるなど、様々な分析から宮崎県の林業が他県と比較しても突出した産業であることを踏まえ、再造林対策や担い手不足などの問題が顕在化していることなど具体的に説明をしていただきました。

翌日の研修は、山崎氏より理事と監事それぞれの職務や関係性について詳しく説明がありました。また、監査実務については、計画の策定や決算監査の確認項目、監査のポイントなど、再確認するよい機会となりました。

最後に、丸山氏より昨今の様々な話題を織り交ぜながら、ハラスメントや情報セキュリティなどコンプライアンス全般の講義があり、不適正事案の発生防止に向けた取り組み等について詳しく研修していただきました。

当会では今後も、本県の森林・林業・木材産業の発展に寄与できるように継続的に研修会を開催していくこととして

います。



研修会の様子

JForest 森林組合綱領

— 私たち森林組合のめざすもの —

私たち森林組合は、地域の森林管理主体として、地域の森林を協同の力で育て守り続け、森林環境保全と林業発展を通じて、地球温暖化防止へ貢献するとともに、水源の保全、国土の安全、健全な森林環境と良質の木材を国民へ提供しながら、健康で安心、豊かな生活を支えていくことを使命とします。

私たち森林組合の組合員・役員は、こうした使命を自覚し、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主・自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、平和とより民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、私たち森林組合の組合員・役員は、次のことを宣誓し、責任をもって行動します。

- 一、森林の恵みに感謝し、地球環境保全のため、豊かな森林を未来に引き継ごう。
- 一、森林を守り育て、林業と山村を活性化しよう。
- 一、JForest 森林組合への積極的な参加によって、協同の力を発揮しよう。
- 一、自主・自立、民主的運営を基本に、開かれた組合経営を目指そう。
- 一、協同の理念と誇りある仕事を通じて、共に生きがいを追及しよう。

宮崎県森林組合職員連絡協議会大会を開催

県下の森林組合職員で組織する宮崎県森林組合職員連絡協議会は7月21日から22日の2日間、第55回職連大会を宮崎市のニューウェルシティ宮崎で開催しました。

同協議会では、会員相互の連携を図りながら親睦を深めるとともに、会員の身分の安定及び経済的地位の向上、また森林組合の発展に寄与することを目的に総会とあわせて研修会やレクリエーション大会を開催しています。

コロナ禍により令和元年度以降は開催を自粛していたため、実に5年ぶりの開催となりました。

大会初日は通常総会が開催され、令和4年度事業報告並びに収支決算、令和5年度事業計画並びに収支予算、令和5年度会費額及び納入期日の3議案について原案通り可決されました。また、総会後の講演会では、プロフリークライマーの尾川とも子氏を講師に迎えて「前向き思考で岩の下にも3年～世界初へのチャレンジ～」と題して講演会が行



会長あいさつ

われました。

引き続き行われた交流会では、宮崎県環境森林部松井健太郎次長、県森連長友幹雄会長より祝辞をいただき、各森林組合長や県、関係団体、金融機関から多数の御来賓を迎え、職員間の親睦と交流を深めました。



交流会の様子

大会2日目は、ゴルフとボウリングの2種目でレクリエーション大会が開催されました。ゴルフの部は、宮崎カントリークラブで来賓を含む35名、またボウリングの部は、宮崎エースレーンにて56名が参加し盛大に開催されました。

レクリエーション大会の成績は次のとおりです。

ゴルフ大会成績

(敬称略)

優勝 三浦 賢治 (南那珂)
準優勝 河野 通貴 (南那珂)
第3位 櫻井 友樹 (来賓)

ボウリング大会成績

(敬称略)

優勝 原村 勇飛 (都城)
準優勝 待木 慶太 (都城)
第3位 甲斐 涼子 (延岡)

令和5年度 全国森林組合職員連盟 全国研究集会に参加

令和5年9月8日から9日の2日間、全国森林組合職員連盟が主催する全国研究集会が島根県松江市のホテル一畑で開催され、宮崎県職連より代表として半渡智康会長はじめ3名が出席しました。研究集会では「森林環境譲与税」をテーマに、島根大学名誉教授 伊藤勝久氏の基調講演をはじめ、島根県邑智郡、岡山県津山市、愛媛県久万町の森林組合の活用事例を拝聴しました。経済学の視点から見た取り組みの評価方法や、地域住民や市町村と連携した林業事業者への多面的な支援体制の構築、航空レーザーの計測データを基にした森林GISデータの整理事業など多種多様な情報をいただき、たいへん有意義な集会となりました。

また、全国森林組合連合会からは「女性活躍推進

琴の音ネットワーク」による女性職員の情報共有や交流活動が紹介されました。その後、2023ミス日本みどりの大使である上村さや香氏の活動紹介に加え自身が作詞作曲した「森で愛ましよう」の弾き語りによる美しい歌声と能登ヒバ製ギターの音色が会場を大いに盛り上げました。

2日目は令和4年の火災から再建した(株)日新本社工場を見学し、島根県を代表する出雲大社を周るなど、島根県の文化を学びながら全国の森林組合職員との交流を深めることができました。



視察の様子

森林組合主任職員研修会を開催

当会は、7月13日から14日の2日間、「森林組合主任職員研修会」をJForest ビル大会議室にて開催しました。本研修会は主任級の森林組合職員を対象に、「メンタルヘルス・レジリエンス」や「コンプライアンス」、「林業労働安全」など幅広い分野の研修を実施しました。講義ではメンタルバランスを保つ方法や実際にAEDを用いた訓練、チームワークに活用できるコミュニケーションの知識、会計の手順など、実践的な内容を修めました。研修後のアンケートでは「責任者になる前の事前準備、気

持ちのあり方を学べた。」など研修で得た学びを業務に活用したいという意気込みを多くいただき、職員の意欲向上や資質向上につながる研修となりました。



救急救命の様子

森林組合インボイス研修会を開催

当会は、令和5年8月1日に森林組合インボイス研修会をJForest ビル大会議室にて開催しました。研修会には、全国森林組合連合会 組織部 林政課長 早瀬悟史氏をお招きし、インボイス制度について講義をいただきました。特に森林組合の業務に焦点を当て、森林所有者から森林組合が立木を買い取るケースや、素材生産から販売までを委託するケース

など多岐にわたる場面について、免税事業者の場合も含めた解説をしていただき、参加者の皆さまから「森林組合の業務に沿った内容でわかりやすかった」といった声を多くいただきました。また適格請求書の書式案はたいへん参考になり、森林組合一同が制度開始に備えるにあたり大きな助けとなりました。

森林組合中堅職員研修会を開催

当会は、令和5年8月31日から9月1日の2日間、「森林組合中堅職員研修会」をJForest ビル大会議室にて開催しました。本研修は係長・課長補佐級の職員を対象とし、「財務諸表の見方」、「リーダーシップとコミュニケーション」、「山林に関わる法律問題」などのプログラムで行いました。研修では経営状態を読み解く方法や、リーダーとしてのチームとの関わり方、土地の所有権などにまつわる事例、コンプライアンスやメンタルヘルスなどの講義を修め、上司や部下と円滑な関係を作り、また受け持った職務を遂行する能力を鍛えることができ

ました。研修後のアンケートでは、「ポジティブストロークに興味を持てたので、実践したい」など意欲的な感想が多くありました。



グループワークの様子

新規採用者のあいさつ



はしもと ゆうた
橋本 裕武

この度、中途での採用で、10月2日より総務部総務課に配属となりました、橋本裕武と申します。

これまでは、プレカット工場等への法人営業や飲食店向けレジの販売などに従事しておりました。

また、大学まで宮崎県で過ごしておりましたが、社会人になってからは、関東や東北などの宮崎県外で生活をしていました。

今回、ご縁があり地元に戻ることができたので、以前木材業界に関わっていた経験を活かして恩返しできるように身を引き締めて努める所存です。

前職が異業種で、林業から少し離れていたため多々ご迷惑をおかけするかもしれませんが、一日でも早く当会や宮崎県の林業の力になれるよう尽力して参ります。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

宮崎県生産森林組合連絡協議会・活動活性化研修会が開催される

10月5日に令和5年度宮崎県生産森林組合連絡協議会及び宮崎県生産森林組合活動活性化研修会が日向市文化交流センターにて開催されました。

協議会では、令和4年度事業報告並びに収支決算、令和5年度事業計画並びに収支予算案等の議案について審議が行われ、全て原案どおり可決されました。

続いて研修会では、宮崎県環境森林部より全国の生産森林組合の沿革と近況について説明がありました。次に、林災防宮崎県支部の森勇二氏より「林業労働安全について」講演が行われました。講演では

宮崎県の林業労働災害の傾向や再発防止策についての説明の他、労働安全衛生法や関係諸法令の確認、作業計画作成の徹底など、事業者の責務として重要な内容を多く取り扱いました。また、研修の最後には作業中の蜂刺されによる労働災害について動画を視聴し、蜂の生態や毒のメカニズム、対処法などについて学びました。参加者からは「伐採作業における安全対策がいかに大切であるか思い知らされました」などの感想を多くいただき、安全意識の向上につながる、たいへん有意義な研修会となりました。

DISCOVER MIYAZAKI
ディスカバー宮崎

合言葉は「**ジモ・ミヤ・ラブ**」

「地元の宮崎を愛することが
地産地消につながる」

という趣旨の地産地消の
キャッチフレーズです

みやざき元気！“地産地消”推進県民会議

ディスカバー宮崎 応援消費

🔍 検索

ホームページに応援消費コーナーを
設けています。

協同組合学習会を開催

～「持続可能な地域づくり」「国消国産」等への行動変容のきっかけに～

宮崎県内の協同組合9団体（宮崎県生協連、宮崎県漁連、宮崎県森連、九州信漁連、JA宮崎経済連、JA宮崎信連、JA共済連宮崎、農林中央金庫福岡支店、JA宮崎中央会）で組織する「宮崎県協同組合協議会」は、令和5年9月23日、JA・AZM大ホールで県内の一般消費者等を対象とした「協同組合学習会」を開催しました。

この学習会は協同組合の目的や協同組合が現代社会で果たしている役割等に理解を求めるとを目的としており、一般参加者として消費者や高校生、大学生、各組織の組合員や役職員の約450名が参加したほか当会からも8名が参加しました。

学習会では、日本協同組合連携機構（JCA）松尾賢氏が「日本の多様な協同組合と連携による持

続可能な地域づくり」と題し、協同組合の発足した経緯や各協同組合の概要、地域社会への貢献と理解の重要性を解説しました。

続く講演では、JAグループサポーターを務める東進ハイスクール・東進衛星予備校 現代文講師 林修氏が「『国消国産』・「地産地消」いつやるか？今でしょ！」と



林 修氏

題し、国産品や食の安全に気を遣っている自身のエピソード、国内の食料自給率の低さ、農業従事者の高齢化などの現状を踏まえ、講演を行いました。

「宮崎県協同組合協議会」は、協同組合運動の促進等を広く県民に周知するために、今後も引き続き活動を行う予定です。

令和5年度 宮崎県林業構造改善協議会 通常総会・研修会が開催される

令和5年8月1日に、ホテルメリージュにおいて宮崎県林業構造改善協議会の通常総会及び研修会が対面で4年ぶりに開催されました。

通常総会では、宮崎県協議会 長友幹雄会長の挨拶のあと、来賓を代表して宮崎県環境森林部 山村・木材振興課長 二見茂氏に祝辞を賜りました。議事は滞りなく進行し、提出された議案はすべて原案どおり可決しました。

通常総会終了後に行われた研修会には会員のほか、一般参加者を含め68名が参加し、講師に林野

庁林政部木材利用課 監査官 有山隆史氏を招き「改正クリーンウッド法の概要と木質バイオマスを取り巻く状況について」と題して講演が行われました。講師の有山氏は令和2年から3年にかけて宮崎県環境森林部 山村・木材振興課長として尽力され、現在は同庁にてバイオマス担当として活躍されています。講演は、合法性が確認された木材の流通と木質バイオマスの発電と熱利用を通じた県中山間地域の振興に多くの方々強い関心を持っていることが感じられた研修となりました。

ご存知ですか？「林退共」の退職金制度

林退共制度は・・・

林業で働く人たちのために、国が作った退職金制度で、安全・確実に従事者の皆様へ退職金をお支払します。

事業主のメリットは・・・

- ◎税法上の扱い 事業主が払い込む掛金は、法人では損金、個人では必要経費として全額非課税となります。
- ◎国の補助 新たに加入した従事者は、掛金の一部が免除となります。

お問い合わせはこちらまで

独立行政法人勤労者退職金共済機構

林業退職金共済事業本部

TEL03-6731-2889

当会では、下記の日程で優良材市を開催いたします。

優良材市

令和6年 1月 19日 (金)

一般材：4,000m³ 9:00～

優良材：300m³ 13:00～

場所：東郷林産物流通センター

主催：宮崎県森林組合連合会

協賛：県下森林組合・各センター出荷者会

問合せ：TEL 0982-69-3317 FAX 0982-69-3382

木 材 市 況

7月から9月の入荷量は、7月は44,730㎡、8月は38,532㎡、9月は50,673㎡の取扱量となり、前年同期と比較すると3ヶ月で16,910㎡の減少し、前年比88%の取扱量となりました。

市況は、国内の製品については好転の兆しは見えないところですが、製材工場の原木在庫不足や原木市場への入荷不足の影響もあつてか、国産材の価格は強持合で推移しています。

平均価格は、7月は11,550円/㎡、8月は11,879円/㎡、9月は12,810円/㎡でした。8月下旬の共販市から価格上昇が見られ、9月下旬がピークと思われましたが、10月に入っても横這いの状況が続いています。ただ、出材過多になれば価格に影響が出ることも考えられます。

輸出向けの低質材については、中国市場は芳しくないですが、一定の流通があり、発電用バイオマス材については、極端な値上げ競争の話は聞こえないものの、慢性的に在庫不足が続いているところです。

今後も、これまで以上に集荷に伴う競争や価格の改定が進んでいくと推測されますので、注視が必要です。

市況については、当会ホームページに各林産物流通センターの最新市況を掲載しています。出荷時期、造材等についてご不明な点がございましたら、各センター担当までご相談下さい。

宮崎県森連 各センター素材市況 中値 (10月上旬)

(単位:円/m³)

樹種	長さ	径級	高千穂・五ヶ瀬	東郷	宮崎	都城	高原	日南
スギ	2.0	3~14	-	-	-	-	-	-
		16~28	8,000	-	-	-	8,000	-
	3.0	3~7	8,200	-	-	-	-	10,000
		8~11	10,400	-	8,300	13,300	-	9,600
		12~13	12,400	12,000	12,900	14,600	12,600	-
		14	14,900	15,500	14,100	16,700	15,100	-
		16~18	16,000	15,700	15,900	16,700	16,200	14,300
		20~22	15,300	15,100	15,000	16,000	15,800	13,100
		24~28	15,800	14,700	14,900	15,500	15,400	14,500
		30~	12,900	13,300	12,400	13,000	13,500	12,800
	4.0	3~7	13,600	-	11,400	-	-	14,300
		8~11	12,300	-	13,800	14,100	13,700	13,100
		12~14	12,500	14,900	14,900	15,000	14,600	14,600
		16	17,700	16,500	16,500	16,300	16,100	16,100
		18~22	16,600	16,500	16,100	16,100	15,900	15,800
		24~28	15,900	16,500	15,900	16,100	15,900	15,800
6.0	16~18	21,000	-	-	-	-	-	
ヒノキ	3.0	16~18	20,700	21,300	-	19,200	20,100	-
		20~22	19,000	19,300	-	19,500	19,300	-
	4.0	12~13	18,000	-	-	-	13,600	-
		14~16	24,100	24,400	-	23,500	23,400	-
		18~22	23,700	23,800	-	22,300	22,000	-
6.0	16~18	-	-	-	-	-	-	
マツ	4.2梁材	18~20	-	-	-	-	-	-
		22~24	-	-	-	-	-	-
		26~28	-	-	-	-	-	-

誤伐・盗伐の未然防止に努めるため森林境界等確認を徹底しましょう

●原木を合法木材及び木質バイオマスとして流通させるには、伐採届等の提出及び事業者認定の取得が必要です。